

アートで人とつながる多様な人材の育成

赤字 卒業必修科目
 履修必修科目
 社会実装科目 (産学連携含む)
 企業、自治体と連携し提案・実現する授業

(A)アートで生きる	(B)アートを活かす	(C)アートと共に生きる
進学(大学院、海外留学) アーティスト(写真家、映像作家、美術作家)	美術系専門職 (写真スタジオ、映像制作会社、テレビ・ネット放送制作会社、アートコーディネーター、ギャラリー勤務、学芸員) クリエイティブ系専門職(広告代理店、IT関連会社、デザイン)教育(中高教員、大学非常勤講師、技官、写真教室)	一般企業(企画職、総合職、接客販売) 地方自治体職員

4 年生	後期	●4年「応用」独自の表現を深める	卒業展・東京展	卒業研究・制作 A.B.C	創造表現XI(言語能力の養成) A.B.C	社会的自立へ	豊かな個性の確立
	前期		卒業研究(ゼミ・キャリア)	創造表現IX(卒制計画) A.B.C	創造表現X(卒制計画の実験・検証) A.B.C	創造表現XI(ゼミ) A.B.C	進路決定
3 年生	後期	●3年「表現と思考」専門性の高い多様な表現の習慣	プレゼン技術	創造表現VIII(キャリア)A.B.C	クライアントワーク	言葉によるプレゼン技術	プレゼンスキルの向上
	前期		構成写真	創造表現V(作品制作と展示) A	創造表現VI(高度な映像表現) A.B	創造表現VII(卒制の試作制) A.B.C	社会性の向上 学生作品展
2 年生	後期	●2年「技術」専門技術とPCスキルの修得	スタジオ撮影応用(ストロボ実習)	創造演習VIII(キャリア)A.B.C	PC/Illustrator, InDesign	情報編集とシリーズ化	ポートフォリオ作成
	前期		スタジオ撮影基礎(ストロボ実習)	創造演習VII(展示技術) A.B	創造演習VI(リサーチと作品) A.B	創造演習V(リサーチ方と実践) A.B.C	マイアーカイブ展 インターン
1 年生	後期	●1年生学習習慣の徹底と基礎力の養成	先行研究リサーチ基礎	写真・映像基礎VIII(キャリア)A.B.C	PC/Adobe レイアウト系基礎	展覧会企画の基礎・図面制作	様々な生き方を知る
	前期		写真合成基礎	写真・映像基礎V(映像基礎1)A.B.C	写真・映像基礎VI(ライティング基礎)A.B.C	写真・映像基礎VII(映像と録音基礎)A.B.C	将来に向けて行動開始
				写真・映像基礎IV(キャリア)A.B.C	PC/Adobe 写真編集系基礎	PC/データ管理、文書、計算	ロールモデル研究
				写真・映像基礎I(写真・映像基礎)A.B.C	写真・映像基礎III(写真基礎)A.B.C	写真・映像基礎II(学科ファウンデーション)A.B.C	自己を見つめる
						(A.B.C)美術概論I (B.C)美術工芸史I (A.B.C)工芸概論I (A.B)美術工芸史III (A.B)美術工芸史II (B.C)図学B (B.C)ソーシャル・アート演習I(社会実装科目)	他者・社会を知る
							将来の夢を育む
							共同作業の喜びを知る

教職(小・中・高)・学芸員課程

【1-b】 美術工芸学科 コース共通科目カリキュラムマップ

科目名	講義種別	履修学年	開講期	単位		テーマ	授業概要	到達目標	探究力	思考力	発注・構想力	表現力	行動力	継続力	コミュニケーション力						
				必修	選択																
美術概論Ⅰ	講義	1年以上	前期	2		西洋美術の歴史	こんにち「名作」とされる美術作品は、どのように誕生し後世に受け継がれてきたのでしょうか。この授業では、古代から20世紀半ばにおける西洋美術作品を取り上げ、その様式の変遷の理解を目標とします。作品の背景となる西洋の社会および思想にも焦点をあて、歴史的観点から作品への理解を深めます。	西洋美術の作品の基本的な見方と、大きな美術史の流れを身に付け、様々な時代背景をふまえて作品を見る目を養うことを目標とする。	30	60	40	80	0	0	0	30	60	0			
美術概論Ⅱ	講義	1年以上	後期	2		西洋美術の歴史：20世紀美術を中心に	みなさんと一緒に、美術史上の作家たちも、与えられたそれぞれの時代の中で作品を生み出してきました。この授業では、美術概論Ⅰで概観した西洋美術史をより深めるとともに、西洋と日本の20世紀美術の流れを学びます。なかでも作家の生涯とその作品の変遷に焦点をあて、世界大観のはざま、彼らがどのように制作と向き合ってきたか考えることを通じて、作品理解を深めます。	西洋美術史を身につけるとともに、近代以降の日本作家がどのように西洋美術に對峙してきたか、時代背景をふまえて作品を見る目を養うことを目標とする。	30	60	40	80	0	0	0	30	60	0			
工芸概論Ⅰ	講義	1年以上	前期	2		日本近代の工芸	近代日本の工芸の作品を社会背景の関連とともに紹介する。特に後半は、民藝の展示施設を具体例として、生活、文化、社会との関係を意識しながら工芸に対する概念の考察を深めていく。	ものづくり」に携わる者として、「もの」の存在意義について考えるきっかけをつかむ。	30	60	40	80	0	0	0	30	60	0			
工芸概論Ⅱ	講義	1年以上	後期	2		鑑賞能力の育成	身近にあるものを取り上げ、外見や制作工程、歴史や思想など多角的に鑑賞を行う。その題材として、工芸品に限らず、映像や印刷の技法、イラストなども取り上げる。	さまざまなものを鑑賞する能力を身につけることで、自身のものづくりにおける視野を広げる。	30	60	40	80	0	0	0	30	60	0			
美術工芸史Ⅰ	講義	1年以上	前期	2		世界の都市問題と現代美術	現在、私たちがとりまく都市文明は具体的などのような姿で存在し、変化しつつあるのか。そして人間に対していかなる問題提起をはらんでいるのか。芸術と人間の基礎を形成するこの都市文明のアクチュアルなありようについて学ぶために、本講義では担当教員がそれぞれに体験してきた世界の様々な都市を紹介し、個別の体験を通して浮かび上がる都市や人間の問題について具体的に考察する。あたたか世界一周をすかのよう、地理的、歴史的な移動をダイナミックに繰り返しながら、より幅広く柔軟な視点で自身と世界を結び付け、思考し、現代の表現者となる若者が世界に向き合う表現を目指すようナビゲートしたい。	都市文明に関する基礎的な教養だけではなく、そこから人間や社会とは何かを主体的に考える力を獲得する。	40	80	40	80	0	0	0	20	40	0			
美術工芸史Ⅱ	講義	1年以上	前期	2		絵画史を西洋と日本の比較によって読み解く	西洋と日本との比較の観点から古代から現代までの絵画史を考察していきます。比較のテーマは、①歴史画、②宗教画、③肖像画、④風景画・自然描写、⑤静物画、⑥動物画の6つです。6つのテーマにおいて、両者にどのような相違があるのかを、代表的な作品を取り上げながら見ていきましょう。相違は、西洋と日本、それぞれの文化や、人々の考え方が反映されたものであるでしょう。そこに時代や画家の相違も見ていくことで、西洋と日本との比較によってそれぞれのテーマにおける問題点や工夫を知り、あなた自身の研究・制作のヒントを見つけ出しましょう。	授業で取り上げる6つのテーマに関する代表的な作品を知ること。また、それらの作品を西洋と日本との比較の観点から理解し、論じられるようになること。	40	80	40	80	0	0	0	20	40	0			
美術工芸史Ⅲ	講義	1年以上	前期 2019年度は夏期集中	2		日本染織文化史	日本の服飾と染織文化についての講義である。古代中国で創始された絹織物は、シルクロードを通り世界各地に広まった。日本の服飾文化も、絹織物に支えられ発展してきたといえる。本講義では、シルクロードを通じて諸外国の文化を受容する様子や、着物が成立する過程など、絹織染織品を中心に日本の服飾と染織文化を講義する。	日本の染織史の概略をつかむと共に、実物資料、絵画資料、文献からどのようなことが読み取れるのかを理解して基礎的な学力をつけることを目標とする。	40	80	40	80	0	0	0	20	40	0			
美術工芸史Ⅳ	講義	1年以上	後期	2		陶芸と彫刻に見る造形史	人類は有史以来、輝かしい文明を築いてきました。それに呼応して造形芸術の世界も大きく姿容を遂げてきました。洋の東西を問わず、地域、時代、社会を反映し、生活に根づいたものから芸術性、芸術性の高いものへと個性豊かな造形世界を構築しています。ここでは陶芸、彫刻による東西、時代の特性を比較研究、考察する。	古今東西の陶芸、彫刻を巡ることにより、その表現形式の変遷を考察することで造形の特質と社会との関わりを理解することができるようになる。	40	80	40	80	0	0	0	20	40	0			
表現研究Ⅰ	講義	3年以上	後期	2		造形美術にみる素材と技法の展開	われわれを取り巻く日常は多くの造形作品に満たされています。完成度の高い優れた作品は観る楽しみとともに想像をかきたて、生きる喜びを与えてくれます。そしてそれら、いずれの作品も厳選された素材と優れた技法により支えられています。これまで造形美術で培われた素材と技法を講義とワークショップによりその特性と機能について学ぶ。	造形作品と素材、技法についてその特性、機能を理解し、自らの専門分野として把握できるようにする。	50	100	0	0	0	0	50	100	0				
表現研究ⅡA	講義	2年以上	前期	2		入手可能な古典技法材料から最先端素材までを検証し、制作にフィードバックする	修復材料から最先端素材にいたる技法材料を西洋・日本美術史から学び、画材メーカーとの研究協力の実践講義を通じ自身の独自性ある表現を導く。	自身で画材や道具をカスタマイズし、入手可能な表現素材から独自の表現を導き出す。	40	80	0	0	40	80	0	20	40	0			
表現研究ⅡB	講義	2年以上	後期	2		入手可能な古典技法材料から最先端素材までを検証し、制作にフィードバックする	修復材料から最先端素材にいたる技法材料を西洋・日本美術史から学び、画材メーカーとの研究協力の実践講義を通じ自身の独自性ある表現を導く。	自身で画材や道具をカスタマイズし、入手可能な表現素材から独自の表現を導き出す。	40	80	0	0	40	80	0	20	40	0			
表現研究Ⅲ	講義	3年以上	後期	2		写真と芸術	必ずしも誰もが「写真家」になるわけでも、写真の専門家になるわけでもありません。しかし私たちがこの世界を認知するにあたって写真の存在がはた不可欠であるように、芸術を思考し志向するすべての人にとって、写真の存在を無視することはほぼ不可能です。そこでこの授業ではまず、写真と芸術がどのように接近し、反発しあい、相互に影響を及ぼしてきたかを歴史的に追います。そのうえで、ゲルハルト・リヒター、フィッシャー・ヴァイス、ソフィ・カールなど、写真をその表現手段のひとつとして柔軟に用いる様々なアーティストや写真家たちの作品を知ること。写真と芸術の関係を多角度から柔軟かつより深く考えられるようになることを目指します。	写真が芸術にどのような影響を与え、かつ今日いかなる意義をもつのかを主体的に考える力を身につける。	50	100	50	100	0	0	0	0	0	0			
表現研究Ⅳ	講義	1年以上	後期	2		繊維加工研究	染織テキスタイルの創作において必要不可欠な、染織材料、染料、加工（製織、染色）に関する基礎知識を体系的に説明します。ここでは、色んな専門用語がでてきますが、用語を単に覚えるのではなく、理解して覚えることに力を入れ、平易に解説します。新たな創作において必ず必要なことは、用いる素材、技法についての科学的な考察力です。	染織材料、染料、加工に関する体系的な基礎知識を得、染織テキスタイルに用いられる素材、技法について探求し、科学的な視点で考えるようになる。	40	80	30	60	0	0	0	30	60	0			
図学A	講義	1年以上	前期前半	2		「かたち」を思考、認識し、描き、伝達する。	古代ギリシャの時代から空間に存在する「かたち」を平面上に書き表し表現、伝達するために図形の性質を解析する方法を研究する学問が「図学」の始まりのひとつとされています。ルネッサンス期には透視図法（パース）を明確に表す絵画も現れ、時代ごとに様々な工夫を見出し絵画の発展とも深く関係する一面を持ちます。また「図」は「かたち」「空間」を時代、文化、言葉を超えて表現、伝達できる「視覚的共通言語」ともいえます。1. 講義では実際に作図を行うことで基礎的な図法を体験。・「かたち」を思考、認識・「かたち」を「図」で描くことで表現・「かたち」を「図」にすることで伝達2. 図法の基本的考え方を解説3. 過去の作品の図学的視点による解説 立体や空間を理解、認識する能力を養い、自己の創作活動で作品を表現、伝えるヒントとしてみてください。	・立体や空間図形の理解を深め空間の概念に対する認識力。 ・「図」による表現、伝達する能力。 ・「かたち」と「空間」の創造、シュミレーション能力。	0	0	20	40	0	0	30	60	0	0	0	50	100
図学B	講義	1年以上	後期前半	2		「かたち」を思考、認識し、描き、伝達する。	古代ギリシャの時代から空間に存在する「かたち」を平面上に書き表し表現、伝達するために図形の性質を解析する方法を研究する学問が「図学」の始まりのひとつとされています。ルネッサンス期には透視図法（パース）を明確に表す絵画も現れ、時代ごとに様々な工夫を見出し絵画の発展とも深く関係する一面を持ちます。また「図」は「かたち」「空間」を時代、文化、言葉を超えて表現、伝達できる「視覚的共通言語」ともいえます。1. 講義では実際に作図を行うことで基礎的な図法を体験。・「かたち」を思考、認識・「かたち」を「図」で描くことで表現・「かたち」を「図」にすることで伝達2. 図法の基本的考え方を解説3. 過去の作品の図学的視点による解説 立体や空間を理解、認識する能力を養い、自己の創作活動で作品を表現、伝えるヒントとしてみてください。	・立体や空間図形の理解を深め空間の概念に対する認識力。 ・「図」による表現、伝達する能力。 ・「かたち」と「空間」の創造、シュミレーション能力。	0	20	40	0	30	60	0	0	0	50	100		
美術各論	講義	2年以上	前期	2		創作者の思考と実践（美術工芸学科教員の研究から）	創作者の思想や制作態度を様々な領域から示す授業。学科専任教員による創作論をオムニバス形式で展開し、様々な分野の制作・研究内容とその環境、背景を知る。また、各教員の作家になるまでの経緯、作家としてのテーマや考え方、表現手法、素材の選択、今後の目標などを具体的に学び、各自の今後に活かす。美術各論は主に平面系創作者が担当する。	受講生は、教員の創作への様々な切り口を知り、創作の原点や創作方法を共有することから、学生自らの創作意識を高め、制作するときの考え方や実践に応用できるようにする。	0	60	120	0	0	0	40	80	0				
工芸各論	講義	2年以上	後期	2		創作者の思考と実践	1日1教員のオムニバス創作論。創作者としての目標、テーマ、考え方、素材の選択、表現の手法について、背景やキャリアを振り返りながら、学生の視点でわかりやすく紹介する。工芸各論は主に「素材」「技法」に関わりの深い領域の教員が担当する。	教員の創作の様々な切り口を知ることで、自身の制作について深く考えることができるようになる。	0	55	110	0	0	0	45	90	0				
コンピューター演習A	演習	2年以上	前期	2		展覧会DM、フライヤー、ポートフォリオなどの制作から入稿までの技術を身につける。	Adobe PhotoshopとIllustratorの基礎、印刷物入稿の基本的なルールを習得し、就職活動や作家活動など、セルフプロデュースできる力を身につける。	Adobe PhotoshopとIllustratorを使って印刷物の制作・入稿を出来るようにする。	0	0	0	60	120	0	40	80	0				
コンピューター演習B	演習	2年以上	後期	2		展覧会DM、フライヤー、ポートフォリオなどの制作から入稿までの技術を身につける。	Adobe PhotoshopとIllustratorの基礎、印刷物入稿の基本的なルールを習得し、就職活動や作家活動など、セルフプロデュースできる力を身につける。	Adobe PhotoshopとIllustratorを使って印刷物の制作・入稿を出来るようにする。	0	0	0	60	120	0	40	80	0				

創造表現ⅢE	演習	3年・前期				2	ゼミナール	3年次になると、1年後の卒業制作を見据えて各受講者がそれぞれのテーマをもち、テーマに沿った本格的な作品制作へ着手することが重要になる。そこで適宜個別面談を含めつつ、個人制作による作品制作とそのプレゼンテーションを習慣化する。さらに受講者同士のディスカッションを重ねることを通じて、作品をめぐる思考力とコミュニケーション能力を養う。	自作について深く考えながら、主体的かつ計画的に作品制作を進めることができる。	0	0	0	50	100	0	0	50	100	
創造表現ⅣE(キャリア)	演習	3年・前期				2	スタジオ撮影とポートフォリオ制作	ストロボなどを使用したライティング技能を使った様々な写真表現技法を学び、その技術を利用して自己の制作を幅を広げる。また撮影したデータを編集し、伝えることを意識した制作を行う。	ストロボ機材を使って専門性の高いライティングすることが出来るようになる。編集力を身につけることが出来る。	40	80	0	0	40	80	0	20	40	0
創造表現ⅤE	演習	3年・後期				2	プロジェクションマッピング	プロジェクションマッピングの技術と映像展示について学ぶ。	モニターやプロジェクター等、映像展示機器を扱えるようになる。映像投影を行う場所の特性を研究し、映像による場の変容のあり方を考える。	0	40	80	0	30	60	0	30	60	0
創造表現ⅥE	演習	3年・後期				2	旅と文学	文学作品をベースにした作品制作および展示の実施を行う。	計画的に作品制作と展示準備を進めることが出来るようになる。	0	40	80	0	30	60	0	30	60	0
創造表現ⅦE	演習	3年・後期				2	ゼミナール(作家研究)	今日の芸術表現やキュレーションの問題を取り上げ、受講者がディスカッションに参加することで、作品制作における分析力、構想力、コミュニケーション力の向上を図る授業。	今日の芸術と自作について深く考えながら、主体的かつ計画的に作品制作に取り組むことができる。	0	0	0	50	100	0	0	50	100	
創造表現ⅧE(キャリア)	演習	3年・後期				2	スタジオ撮影とプレゼンテーション	人口光を使ったスタジオ撮影を中心に、写真のさまざまな表現技法を学び、作品の完成度とプレゼンテーション能力を高める。	履修者全員が、人工光によるスタジオセットアップ写真撮影が出来るようになる。撮影・編集技術をプレゼンテーション力に繋げることが出来るようになる。	40	80	0	0	40	80	0	20	40	0
創造表現ⅨE	演習	4年・前期				2	構想設計	卒業制作の完成度を高めるために、展示模型制作やディスカッションを通じて、自作の言語化を含めたソリッドなアウトプットオリティーを獲得する	常に知的好奇心と技法への探究心を欠かさず、また言語化能力を高めるための読書と文章化を日常化し、時代を見据えた完成度の高い卒業作品を生み出すことができる	0	0	10	20	80	160	10	20	0	0
創造表現ⅩE	演習	4年・前期				2	インスタレーション研究	卒業展覧会に向けての作品制作と、個人面談。自分の表現の輪郭を決定し、自主的な制作を行うための手助けをする。制作スケジュール、模型製作、会場レイアウト、アートブックの制作などの実務的な問題も各自で出来るように指導する。	卒業制作という4年間の集大成の作品を、最後まで探究心と向上心を失わずに仕上げる。	0	0	0	50	100	0	0	50	100	
創造表現ⅩⅠE	演習	4年・前期				2	ゼミナール	卒業制作の指導および進路指導。各自の制作計画、作品プレゼンテーション、ディスカッションを繰り返し、作品制作だけではなく作品をめぐる言語的思考の鍛錬を目指す。	4年間の集大成として作品および言語の両面において自分自身を鍛えること。	0	0	0	50	100	0	0	50	100	
創造表現ⅩⅡE	演習	4年・後期				2	ステートメントライティング	他による作品についてステートメントを書くというトレーニングを通して、作品をめぐる論理的に思考し、それを言語化するための力を養う。それによってイメージと言葉を通してコミュニケーションすることの可能性を探る。	自作についての確にステートメントを書くことができる。	0	50	100	0	0	0	0	50	100	
卒業研究・制作E	演習	4年・後期				4	□空間設計+インスタレーション(木曜) □ゼミナール(金曜)	インスタレーション 卒業展覧会に向けての作品制作と、個人面談。自分の表現の輪郭を決定し、自主的な制作を行うための手助けをする。制作スケジュール、模型製作、会場レイアウト、アートブックの制作などの実務的な問題も各自で出来るように指導する。 ゼミナール 卒業制作の指導および進路指導。各自の制作計画、作品プレゼンテーション、ディスカッションを繰り返し、作品制作だけではなく作品をめぐる言語的思考の鍛錬を目指す。	インスタレーション 卒業制作という4年間の集大成の作品を、最後まで探究心と向上心を失わずに仕上げる。 ゼミ 4年間の集大成として作品および言語の両面において自分自身を鍛えること。	0	0	0	50	200	0	0	50	200	